

令和 4（2022）年度アカガレイ日本海系群の 管理基準値等に関する提案

国立研究開発法人水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 4 年度アカガレイ日本海系群、ベニズワイガニ日本海系群の管理基準値等に関する研究機関会議において、令和 5 年度以降の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

適用する管理規則

「令和 4（2022）年度漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針（FRA-SA2022-ABCWG02-01）」で示された 1 系資源の管理規則を適用する。

管理基準値

- ・ 目標管理基準値は、親魚量（SB_{msy}）で 234 百トン
- ・ 限界管理基準値は、親魚量（SB_{0.6msy}）で 100 百トン
- ・ 禁漁水準は、親魚量（SB_{0.1msy}）で 15 百トン
- ・ 最近年（2021 年）の本系群の親魚量は 338 百トンである。

調整係数 β

- ・ β はどの値であっても、10 年後の親魚量は目標管理基準を 50%以上の確率で上回ると推定された。
- ・ ただし、 $\beta=1$ で 10 年後に親魚量が目標管理基準を 50%以上の確率で上回るのは、現状の資源水準が高く、寿命が長いこと等によるため、注意が必要である。

その他

- ・ 再生産関係のパラメータ推定に使用するデータは、令和 4（2022）年度の本系群の資源評価で推定された 2000～2019 年の親魚量と翌々年（2002～2021）の加入量を用いた。
- ・ 本系群の再生産関係としては、自己相関を考慮したホッケー・スティック型関係式を適用した。パラメータ推定には最小二乗法を用いた。
- ・ 目標管理基準値案での親魚量（SB_{msy}）で期待される漁獲量（MSY）は 59 百トンである。
- ・ MSY を実現する漁獲割合は 17%、漁獲圧は $F_{current}$ の 2.21 倍である。
- ・ 本提案は調整係数 β を 1 から 0 の間で 0.1 刻みに検討した将来予測結果に基づく。
- ・ 加入について海域間で異なる可能性があるため、その状況について注視する必要がある。